

# ごあいさつ

厚生労働大臣政務官 赤石 清美

---



「子どもの虐待防止推進全国フォーラム in おおいた」の開催にあたり、主催者を代表いたしまして、一言挨拶させていただきます。

本日は、各地から大勢の皆さまにご来場いただき誠にありがとうございます。

厚生労働省では、毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と位置付け、子どもの虐待防止について集中的な広報啓発に取り組んでいます。本フォーラムはその一環として、平成17年度から各地で開催しており、今年度は、ここ大分県別府市で開催させていただくこととなりました。

子どもの虐待は依然として深刻な状況です。

児童相談所が虐待事案として対応した件数は、平成24年度で約6万7千件と過去最高を更新しています。また、虐待を受けて死亡するという、痛ましい事件も残念ながら後を絶ちません。

最も愛されるべき家族から虐待を受けるという事態は、子どもにとってこれほど過酷なことはありません。このような深刻な事態を社会全体で受け止め、解決に向けて努力していかなければなりません。

今回のフォーラムは、「みんなの力で子どもを守ろう 子育て支援ネットワークの強化に向けて」をテーマとして、虐待防止や子育て支援の第一線で活躍されている多数の専門家の皆さまによる、基調講演と4つの分科会での議論が行われます。

虐待防止のためには、妊娠期から子育て期に至るまで、地域で安心して子育てができるよう、一貫した子育て支援の体制を構築していくことが必要です。また、適切な支援を行うためには、行政機関、学校、保育所、医療機関、子育て支援団体など、子どもに関わる地域の関係機関が有機的に連携していくことが不可欠です。

本日は、子どもの虐待を社会全体で解決していくための国民一人ひとりの関わり方や、地域における子どもと子育て家庭に対する支援のあり方等について、具体的なお話をしていただけるものと存じます。

本フォーラムが、お集まりの皆さまにとって、虐待防止や子育て支援に関する理解を一層深める場となるとともに、お住まいの地域での取り組みに活かしていけるような、有意義なものとなることを期待しています。

最後になりましたが、本日ご参加いただいた皆さまとフォーラムの開催にご尽力いただいた大分県及び別府市の関係者の皆さまに感謝を申し上げ、私の挨拶といたします。

## 大分県知事 広瀬 勝貞（代読 二日市 具正副知事）



開会にあたり、共催者である大分県を代表いたしまして、ひと言ご挨拶を申し上げます。本日はこうやって県内外から多くの皆様方をこの大分県にお迎えをして、「子どもの虐待防止推進全国フォーラム in おおいた」がこのように盛大に開催されますことを大変嬉しく、また心強くも思っております。ただ今ご挨拶をいただきました赤石政務官には大変ご多用なところご臨席を賜りまして、心より感謝を申し上げる次第でございます。本当にありがとうございました。

さて、大分県では、平成21年度から、「子育て満足度日本一を目指す大分県」というのを政策目標に掲げて、さまざまな施策の推進に取り組んでいるところでございます。具体的に申し上げますと、子ども医療費や保育料などへの経済的支援でありますとか、あるいはまた24時間365日フリーダイヤルで児童相談、育児相談に応じる「いつでも子育てほっとライン」の開設でありますとか、あるいはまた男性の子育て参画の推進などに取り組むことで、子育てがしやすい環境づくり、そして、大分県に住んで良かったと思えるような大分県づくりを進めているところでございます。

一方で、平成23年の11月にこの別府市において、4歳の男の子が母親の虐待によりまして亡くなるという痛ましい事件が発生いたしました。この事件を教訓といたしまして、二度と同じような悲劇を繰り返してはいけない、そういった決意のもとに児童相談所の専門スタッフをさらに増員いたしました。また、10月からは別府市、中津市とのケースワーカーの人事交流も行っています。このように県と市町村との連携強化を図る中で、関係機関が一体となったきめ細かな児童虐待に対する防止活動の取り組みを強力に進めているところでございます。

子どもは社会の「希望」であり、人と人をつなぎ、また世代と世代をつなぐ、かけがえのない社会の「宝」でございます。その「宝」を大切に守り、育てていくために、私たち一人一人に何ができるかということ、ぜひこのフォーラムの場で真剣にお考えいただきたいというふうに思います。

本日は、児童虐待問題の研究や現場での実践において、第一線でご活躍をされている先生方を多数お招きしております。ご来場の皆様方には、児童虐待のない社会を作るためのヒントを得ていただけるものと確信をしているところでございます。そして、本フォーラムを通じまして、子育て支援のネットワークが、テーマにございますように、さらに大きく、さらに強くなっていくことを心から期待しているところでございます。

本県では「日本一のおんせん県おおいたの味力も満載」ということをキャッチフレーズといたしまして、温泉と食をテーマとした観光・ツーリズムの振興にも力を入れているところでございます。別府や由布院など多くの温泉地を有しておりまして、源泉数、これが4,471ございます。また、湧出量につきましては、25メートルプールが1日で1,000杯出る、そういった湧出量を誇っております。まさに日本一でございます。ぜひ、この機会に、大分の天然自然や温泉、あるいはまた関あじ、関さば、豊後牛などの海の幸、山の幸をご堪能いただければ幸甚に存じます。

結びになりますけれども、本日も参集の皆様方のますますのご健康とご活躍を祈念いたしまして、歓迎のメッセージとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

## 別府市長 浜田 博

---

みなさん、おはようございます。ただいまご紹介をいただきました、別府市長の浜田と申します。本日は「子どもの虐待防止推進全国フォーラム in おおいた」が御来賓並びに全国からお越しいただいた皆さん方をお迎えして、ここ別府市で開催されるということにつきまして、心から感謝と歓迎を申し上げます、このように思っております。とりわけ今日はわざわざ、青森県出身と聞きましたが、厚生労働大臣政務官赤石清美様、おいでいただきました。本当にありがとうございます。来るなり私は赤石様とお話をさせていただきました。もちろん、女性局、児童虐待の問題等には大変造詣の深い方でございますが、来るなりですね、温泉のお話をさせていただきました。別府は温泉だねということですね、私は今、温泉所在都市の協議会全国市長会の会長をさせていただいておりますので、温泉所在都市の抱えている問題、大変関心を持っていただいて、温泉の問題、ホテル・旅館の耐震化の問題、更には地熱発電発祥の地ですが、そういう地熱発電、湯けむり発電、これは今全国に別府から発信をしようということで頑張っています。そういったことについてもお話をいただいたので、私も本当に赤石さんに会えてよかったなど、是非温泉所在都市の議連に加盟をいただいて、是非また温泉所在都市に、いろいろな課題について御指導いただけたらと、この場で陳情させていただきます。ありがとうございます。余談の話をさせていただきましたが、本当に今回は児童虐待に対する問題、これは本当に社会全体で解決すべき重要な課題であると思っております。国、県、市、はじめとして福祉、教育、医療、関係する機関の連携が、これは不可欠であるというふうに私は実感しております。さて、当市での児童虐待防止への対応、これにつきましては先程もお話がありました。この別府市で起きたという一昨年の死亡事件、この4歳の男の子がね、別府に住んでいて、その時点で起こったということ、これに助けができなかった、気付くことができなかった、このことに猛反省をしてですね、やはり絆というもの、かかわりというものがかいかに大切なのかと、声掛けが大切なのかと、こういうことを実感したわけでありまして、こういった死亡事件の教訓を活かして、その防止策の改善に向けて行政と官民共同でですね、一生懸命、対応に取り組んでいるところでございます。その取り組みの一つとして、要保護児童対策地域協議会の中で発案されました勉強会、まさに別府子ども福祉塾、今日もたくさん会員の方がおいででございますが、その福祉塾はちょうど今事件から以降2年目を迎えております。児童福祉にかかわる皆様の積極的な御参加、ボランティアで参加していただいております。毎回大変活発な議論が行われております。毎回集まるのがですね、夜間でありながらも100人以上集まってそういう議論を真剣にやっているという姿、私も何度か出席させていただいて、ほんと感動を覚えています。それだけの起ち上がり、関心があるんだなという思いで感謝している次第ではありますが、この積極的な参加によりまして、毎回活発な議論が行われております。関係機関の皆様方とのネットワークが強化をされておるといところであります。後ほどこの分科会の中で、その福祉塾の具体的な報告はパネラーである松永先生からも報告があると思います。コーディネーターの山岸先生にもずっと日ごろからお世話になっておりますが、そういった大きな分科会の中での議論がですね、本当に有意義な議論になることを心から願っております。別府市としては湯けむりと温もりの中で子育てしやすい、こういう実感できる町を作りたい、そういう意味でべっ子ども次世代育成支援行動計画の基本理念としているわけでございます。山、海に囲まれ温泉にも恵まれている緑豊かな自然の中で住民に最も身近な自治体として別府市が何をすべきかその役割をしっかりと踏まえて、子どもと子育て家庭への支援のために関係する機関の皆様と連携を図りながら、地域全体で支え合う、見守る政策を推進することで児童虐待の防止につなげていきたいという思いであります。結びになりましたが、本日のフォーラムの開催で地域のネットワークがより一層強化されますように、そして子どもの虐待防止、予防の意識の向上につなげることを心から祈念いたしまして歓迎の御挨拶とさせていただきます。

